

## 朝鮮労働党第8回大会報告の意義

アルフォンソ・ガルディ

親愛なる友人のみなさん、

わたしは今回、初めてチュチェ思想にたいする研究と理解を深めるための討論に参加する光栄に浴しました。

わたしはこの機会をお借りし、以前に行った政治会合ですでにその手腕と能力について称えたことのある朝鮮労働党と尊敬する指導者たちに感謝の意を表します。

チュチェ思想の根本原理にもとづいており、チュチェ思想の発展と具現をめざす新たな展望を示した朝鮮労働党第8回大会に際して、金正恩総書記が行った報告がもつ大きな意義について述べようと思います。

報告がもつ大きな政治的意義は今後の政策を改善するための経験、かつて提起した問題にたいする重大かつ肯定的な見解を得たことです。

周知のように、人民を党と革命の運命、社会主義の運命を左右する基本的で決定的な要因、根本と見なす学説に基づいて、朝鮮は社会主義社会のすべての分野で改善をもたらすべき課題を抱えています。

ここでも朝鮮労働党中央委員会は、人民軍隊に決定的役割を付与し、彼らが軍事的脅威だけでなく、不意の非軍事的脅威からも国を固く守るという、民族にたいして担った自己の使命を全うするようにしました。

わたしは人民大衆中心の朝鮮式社会主義の優越性と生命力について話そうと思います。

その優越性と生命力は社会主義建設と自強力、自給自足の力を育てるための闘争で表れています。国際関係で起こっている急速な変化に即応して金正恩総書記が政治、経済分野で遂げている進歩、またアメリカに軍事的脅威を与えている中国とロシアをはじめとした国々との関係において最近収めている成果が大きな意義を持つと思います。

世界の社会主義発展の側面で見るとき、互いに異なる特徴をもっているベトナムとキューバなどのような国々との関係を強化する問題も重要に提起されました。それで朝鮮はこれらの国との関係を強化して反帝共同闘争を展開し、社会主義建設で収めた経験も交換しました。

わたしは国際政治界で朝鮮が収めたもっとも大きな成果は、朝鮮が超大国であるアメリカと対峙している国としての地位を刻印させたところにあると思います。

朝鮮人民と朝鮮労働党、そして党を指導する指導者の尊厳と決断について知らない人たちは、相対的に小さい国が帝国主義との戦いで戦略的で決定的な地位を占めることができないと思うかも知りません。

しかしこれは厳然たる事実です。これは人民軍の威力と勇猛が反映された核抑止力によってもたらされたことです。

自主性にたいする朝鮮人民の愛は、軍事に回された大きな経済的、工業的及び社会的努力でも見出すことができます。決してこれは侵略的な性格を帯びたものではなく、積極的で平和擁護的であることを知らなければなりません。

こうした決心はわれわれをして朝鮮をわれわれの歴史と結びつけて見るようにします。

古代ローマ人は戦争抑止の戦略的価値について知っていたし、またそれを主張しました。古代ローマ人は「平和を願うなら、戦争に対処しろ」といいました。

地球上に帝国主義が残っている限り、朝鮮民主主義人民共和国にたいする敵対勢力の侵略戦争の危険が残っている限り、革命的武装力は国際関係の発展に合わせて、自己の国防力を引きつづき強化していくでしょう。

金正恩総書記はこれについて明白に示しています。総書記は報告で、恒常的な国防力の強化について厳粛に強調しながら、国防力の強化を国家存立の基礎、国と人民の尊厳、平和守護の頼もしい保証として規定しました。

共和国の経済発展についても強調する必要があります。

朝鮮労働党第7回大会が示した綱領を貫徹する上で収めた成果と提起された欠点にたいする具体的な分析は、危険である長期間の世界的保健危機によって今日直面している大きな難関の中でも、今後の戦略作成で改善をもたらすようにしました。

このような分析にもとづいて、朝鮮労働党中央委員会は今後5年間の国家経済発展戦略を作成しました。この計画が国防のための主要予備資源について強調するとともに、人民生活の向上に基本目的を置いているという点で非常に興味があります。

政治的、経済的計画は「新たな勝利のために！」というスローガンを高く掲げて社会主義原則を具現して生産の発展と成長を成し遂げるための明白な指針をもたらしました。

金正恩総書記が指摘しているように、5ヵ年発展計画には繁栄と力、自立の必須の条件である科学技術も含まれています。

社会主義文化建設にも関心が払われました。この側面で教育と保健医療、文学芸術など、朝鮮人民の革命的性格を特徴づけるすべての分野に力量と資源を投資すべき必要性が強調されました。

計画を遂行するためには、社会のすべての構成員が社会主義朝鮮の新しくて高尚な文明生活を創造し発展させなければなりません。

終わりに、帝国主義列強によって不当にも分裂した朝鮮の統一問題に大きな注意が払われました。

金正恩総書記は大きな外交的努力にも関わらず、北南関係の現実態は、板門店宣言の発表以前の状態に逆戻りしたといっても過言ではなく、統一という夢はよりはるかに

遠のいたと指摘しました。

金正恩総書記は朝鮮労働党の尊厳の固守と国威の高揚、国益の守護を共和国外交の第一の使命とし、対外活動で自主の原則を確固と堅持しなければならないと述べました。

終わりに、わたしは永遠な金日成主席の誕生日に栄光をささげ、朝鮮人民の偉大な領袖である金日成主席と金正日総書記の偉大な思想を代表する金日成・金正日主義という時代語が生まれたことについて祝賀の挨拶を送ります。